

イエスは かなり

日本クリスチャン・アシュラム連盟



日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 118



戸の外に立って 叩くキリスト

大石 嗣郎



昨年(1998年)4月の、第19回日本クリスチャン・アシュラム連盟の全国理事会席上で、23年副理事長の大役を担ってこられた海老沢宣道師(91歳)の後継者として、第三代目の理事長の役を引受けさせて頂きました。

最近の連盟の人事の流れを、八十代の白川鄭二師(85歳) 渕江淳一師(82歳)の二人に、これ以上の負担をかけることに限界を感じ、このよき機会に連盟人事の若返りを断行しました。その結果として、大石嗣郎理事長(77歳)新理事に、横山義孝師(73歳)有馬歳弘師(58歳)島津吉成師(48歳)の三人の方を加えることを、皆の祈りと支えによって決定した次第です。勿論、新しく組織された連盟は、全国的視野で色々なことを考慮に入れて計画を立てるべきです。

過去40年のアシュラムの歩みの中で、1971年10月に、最後の第10回全国伝道旅行を日本の津々浦々で開かれたS・ジョーンズ師は、1972年自分の死ぬ場所を最も愛したインドに定め、1月3日89歳の誕生日をかのか地で迎え、その1月24日に帰天されました。世界の霊的指導者から、私は直接指導を受けた一人です。2000年にはアシュラム創立70周年記念が、インドのサツタルで行われます。

クリスチャンアシュラムの大目標は「祈」です。今年1999年2月11日の城北アシュラムが新宿西教会で行われます。テーマは「戸の外に立って叩くキリスト」ヨハネ黙示録3章20節です。アシュラムは第一に「祈」、第二に「祈」、第三に「祈」です。連盟の117号に及ぶ「日本アシュラム機関紙」の巻頭言は、いつも「祈り」についてです。「祈りとは何か」について、前述のヨハネ黙示録のみ言葉ほど祈りの本質について、明らかに示しているものはないでしょう。このみ言葉は祝福された祈りの世界の、扉を開ける鍵と言えます。まず私達の祈りがイエスを動かすのではないことを覚えたいのです。そうではなく、イエスがまず私達の心の扉を叩いてくださるのです。私たちの祈りはイエスが私達の心を叩いて下さったことの結果です。

私は今日までホルマン・ハント(1827~1910)の「世の光」聖画を見てきました。しかしあの雑多に蔓草の生えた扉、イエスが叩いている扉には外に把手が欠落していることに気が付いていませんでした。ホルマンという画家は、近代美術家としては稀にみる、篤信の画家であって、その絵の中心点は戸の内側に把手が隠されていることです。つまり堅く閉ざされた扉は頑愚な心を象徴し、夜もすがら露に濡れて立ちつくすイエスの姿こそは、愛と忍苦の権化であるのです。

畢竟、祈りとは、心を開いてイエスを迎え入れることです。

(日本基督教団碑文谷教会牧師)

〈四十年の恵み〉

日本アシュラムの歩み(10)

海老沢宣道

前回は連盟の結成式までを述べて来たが、一〇九号の四頁の記事中で多少訂正して置きたいことは、59年第三回アシュラムが「六ヶ所」とあるのを、一〇四号三頁記載の通り「天城山荘で二六〇名」と訂正。

第五回アシュラムは62年三月に関東地区でNCC主催の下に開催されたいことだけが判った。
第六回アシュラムは64年五月に三泊四日「東日本アシュラム」として八ヶ岳清泉寮でスエーデンの指導者ニールセン師の協力の下に開かれ一二〇名の参加があった。その写真が本紙一一号四頁第七回退修会の記事と共に出ている。その題字の下(4)は(5)に直して下さい。

◆今治アシュラムと日本連盟

第七回は67年三月に博士により天城山荘ほか七地区で開催されたことは記事通り。NCC内のアシュラム祈禱生活委員会が刊行していた「祈りの友」紙によると同年の八月28日から二泊三日、今治教会で榎本牧師中心に、四国地区委員会とは独自のアシュラムを海浜クラブに開催され、教会報、キリスト新聞、NCCの「祈りの友」紙上に広告を出して、定

員70名、会費無料(宿泊食事は今治教会負担)とした所、全国から72名、教会員50名とで一二二名の大集会となった。榎本師がスタンレー・ジョーンズ博士のアシュラムにはその十回中の第何回目から参加されたか不詳だが、(第一回の出席名簿には見えない)かなり以前から祈りの人として、また著書などによってその名声の高い彼が一度博士の靈性に触れると、このアシュラムこそ個人の信仰を深め、教会のキリスト教を本物にする働きであると共鳴されて、委員会制によらず、彼独自の方法で毎年一回開催され、通称「榎本アシュラム」の名が知れ渡った。

関東アシュラムではその第八回69年四月と第九回70年十一月の二回に亘り、講師に榎本師を今治から迎えたことは一一四号記述の通り、その題字(5)は(6)に訂正願いたい。

第十回日本アシュラムはスタンレー

博士の最後の第十回全国伝道の間に、71年十月末、天城山荘他七地区で二泊三日開催され、博士は遺言のつもりか、心血を注いで「震われぬ御国と変らざる人格」につき、各地で「神の国とキリストを求めよ」と熱心に訴えられた。本紙一一五号掲載の写真の如く、二百数十名の多数が参加した。スタンレーは帰米して間もなく八七歳で脳卒中を発病、恐らく再び来援を願うことはあり得ない

ので、72年に師の希望に従い、各地の連絡提携を計るため連盟を結成し、榎本師にも呼びかけたが、彼は四国地区委員を辞退、今治アシュラムは加盟しないとの返事を受けた。その年十月には第六回を東予国民休暇村に二百名を集めて開催、益々独自の行動を取られた。その後、今井寿師は両方に参加している関係から高瀬理事長と榎本師の面談の機会を斡旋されたが、和合は成立しなかった。75年小生も榎本師に書面で希望を述べたが、「同じアシュラム運動ではありませんが、夫々特色があるので一緒にすることよりも夫々が特徴を生かして奉仕して行くのがよいと思います」との返事があり、博士の希望に添い得ない結果になった。然し当時の連盟理事の中にも半数以上は右と同じ意見があり、神の御心ではないかと思う。



国際アシュラムの名与理事任命証

アシュラム生活最良の友
アパ・ルーム
 海老沢 宣道 編集
 (年6回刊行の日々の糧)
 国際的、超教派的、靈的な読物
 価300円、〒90円、年2,340円(〒共)

申込先 ☎256-0812 小田原市国府津3-11
 振替口座 00110-7-193834 アパ・ルーム
 電話番号 0465-48-2010

日本語版は創刊以来47年続行中

スタンレー・ジョーンズ博士の遺言の大著
**『震われない御国と
 変わらない人格』**
 キリスト教二大原理の靈的解明
 海老沢 宣道・千代子共訳

宇宙と人生の究極目的を知りたい万人の書

・B6版・並製・504頁
 ・価2600円・送料310円

発行所・日本クリスチャン・アシュラム連盟
 〒152-0001東京都目黒区中央町1-21-10

信仰生活43年の私の証し

第35回関東アシュラム

「福音の時より」161

斎藤 剛毅

「一七号よりの続き」

私は神様のお導きによって兵庫県の明石で開拓伝道をさせて頂いたのですが、開拓伝道の苦しみを私なりに味わいました。そのなかで神様の促しによって P・T・フォーサイスの「祈りの精神」を訳すように導かれました。「あなたがたのうちに働きかけ、願いをおこさせ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神の良しとされるところである」という言葉に促されて、願いがおこされて、それを実現に至らしめられていったのですが、このピリピ2章13節の言葉は私に大きな影響を与えた言葉の一つです。

さらにフォーサイス先生はこう語られるのです。「天に届く祈りがまだ始まり、その時キリストは来臨されるのである。神がキリストにおいて人を求められる時祈りはすでに始まっているのである」。これはなかなかの名言であると思います。まず神が祈りたもうということですが

「み霊が祈りの力と機能を携えて出でゆかれ、人の心を伴って帰られるのである。すなわち、人の祈りは神の祈りに対する応答である。ここに祈りがある」。ふつう私たちは祈りというのは私たち自身からおこされるものと考えがちでありますけれども、フォーサイスは「まず神が祈り、そして神の祈りに対する応答が人間である」と説明しているのです。そして「キリストの贖罪の心は祈りである」という言葉も覚えておきたいです。「このように人は祈るものとして創造されているから祈るのである。神はご自身の息をもって祈りを引き出されるのである」。このところを訳していきまして私は大きな感銘と靈感を受け、また力を受け、一頁ごと祈りを深めながら訳していった明石伝道時代を思い起こすのです。なぜ私たちは祈るのか。私たち人間の祈りの前にまず神の祈りがあったというところは大きな発見でありました。父祈りたもう。御子イエス・キリストは受肉して人となり、人間を

罪から贖いだし、神と和解させるために自ら十字架で苦難を受苦されて、そして血を流され、十字架の上で激痛に耐えながら御子イエス・キリストご自身が「父よ、彼らをお赦しください。彼らは何をしているか分かんないのです」と祈られたので

罪から贖いだし、神と和解させるために自ら十字架で苦難を受苦されて、そして血を流され、十字架の上で激痛に耐えながら御子イエス・キリストご自身が「父よ、彼らをお赦しください。彼らは何をしているか分かんないのです」と祈られたので

葉がありますけれども、イエス様は死より甦って永遠なる大祭司としてペテロのみならず私たち一人一人のため、全人類のためにお祈りして下さっておられるのです。へブル人への手紙7章25節に「イエス・キリストは永遠にいます方であるので変わらない祭司のつとめを持ちつづけておられる。彼はいつでも生きていて彼らのためにとりなしておられるので、彼によって神にくる人々をいとも救うことができるのである」とあります。

このように父なる神の祈りがあり、御子イエス・キリストの祈りがあります。御子は二千年近く前にイスラエルという場所に時間と空間の制限のなかにご自身を閉じ込められました。それは神様のご自由のなかでなされたことでありませけれども、天地宇宙を創造し、宇宙に遍在し、統轄しておられる全知全能、絶対唯一の神である神様は御子イエス・キリストをこの世にお遣わしになったのです。

このみ霊なる神は地上における罪深き人間のために和解の道を開かれたイエス・キリストの贖罪の業を成就させるために、人間救済のために、聖霊はご自身を現し続け、そして素晴らしい働きをしておられます。私はこの聖霊なる神を「み霊においてご臨在なさるイエス・キリスト」と

呼ぶのでありますけれども、み霊なる潔き神は私たちを愛して救いの実現のために働き、まさに父の働き、そしてイエス・キリストの働きを継続しておられる方でありませう。ですから使徒パウロはローマ人への手紙8章26節から27節に「み霊もまた同じように弱い私たちを助けてくださる。なぜなら私たちはどう祈ったらよいかわからないが、み霊自ら言葉に表せない切なるうめきをもって私たちのためにとりなしてくださるからである。み霊は聖徒のために神のみ旨にかなうとりなしをしてくださる」と記しています。父なる神、子なる神、聖霊なる神、三位一体の神は祈られる神であり、とりなし祈られる神です。神の本質の愛において祈りが人類救済のために素晴らしい働きとなって現れている。この祈りにおける神の本性の発見は私にとっ

ては大きな祝福でした。

私は、アメリカへ留学したいという強い願いがおこされました。聖書の釈義をしっかりと勉強したいという思いがあったのですが、大変不思議なことを神様はなさいませう。思いがけず神学部長でありました尾崎主一先生がいらして「斎藤君、今度留学することに決めたが、教会史やバプテストの歴史を勉強してほしい」とおっしゃるのです。私はその話を聞きました時、びっくりしました。私

のような人間が教会史やバプテスト史を教えることは本当にふさわしくないと思っていましたからお断りしたのですが、日本バプテスト連盟の理事長で神学部の評議員会の委員長をしてもらった荒瀬昇先生が私を説得しに来られました。「斎藤君、君はなかなか引き受けないということなのだけれども、どうして引き受けないのかね」「私はもう開拓伝道に出で六年たっています。本当に学問を志す者はすぐに大学院などに行つて勉強しないと本当の学者になることはできないでしょう」「君はそんなことを考えているのかね。本当に祈つて祈つてやれば神様は必要な力を与えてくださるのだよ」。これはスタンレー・ジョーンズ先生からも受けたことですし、わたしは痛いところをつかれたわけですね。「君はそれでもまだノーというのかね」。この問いかけに対してもう「ノー」とは言えませんでした。「分かりました。留学して学んでまいります」。

アメリカ留学は一九六九年から七四年までの五年間の学びでしたが、修士論文を書き上げたころから、神学校紛争が盛んになってきました。西南大学神学部もその例にもれず大変な状態になりました。ドージャー院長は心臓麻痺でお亡くなりになりました。そして尾崎主一神学部長のお嬢様が神学校紛争の途中にお亡くな

りになりました。大変不幸な死をとげられたのです。尾崎先生も責任を感じてお辞めになりました。神学部も惨憺たる状態になったのです。ですから私はどうしてよいか分からず祈りました。「神様、どういふことなのでしょう。アメリカに行つて教会史の学びをしてバプテストの教派史を中心に学んで来るように言われ、修士の学びを終えた段階で帰れるかと思いましたが、神学校紛争のためにとて帰れるような状態ではないということが分かりました。どうしたらよいのでしょうか。神様、私ははじめはお断りしたではありませんか。私はそんなものにふさわしくないと思つて聖書釈義を勉強して帰れば良い牧師になると思つたのに神様は強引にわたしをねじ伏せて教会史を学ぶように導かれました。一体どういふことなのでしょう。神様にも間違いがあるのでしょうか。などと生意気なことを言つて神様の前に祈つたのです。そして深夜まで祈りました。

神様は生まれてはじめて私の耳にささやくように短い言葉でもありましたが、はっきりと具体的に語つてくださったのです。それはドクター・コースへの道を聞くということが一つでした。次は経済的に保証するということでした。そして帰国後のことは私に委ねよ、という三つの点

がはっきりと記憶に残る形で語つてくださったのです。私は畏れにうたれる気持ちで、その神様の声を聞きました。そして不思議なことに修士論文を書き上げてドクター・コースへの試験を受けましたところパスすることができました。経済的には日本バプテスト連盟のほうからの支援はうち切られますので、特別に奨学金が用意されました。本代などは図書館で古いブックカバーを取り替える製本のアルバイトを三年間、図書館の地下室でしました。

「神様、もうドクター論文も書き上げて帰ることになりましたからお導きくださいませう」と祈りましたら、神学校から車で十五分ほどの距離にあります南区の福岡長住バプテスト教会に牧師として招聘されたのですが、一年後に神学部で教会史を教えるように導かれたのです。私はそれから長住で十三年間、伝道牧会に従事しながら神学生を教え、伝道者養成のために働く恵みを与えられたのです。神様は私に恵みをおこささいませう。次々と決心者がおこされて、一七八名の救いは私にとつては奇跡のように思われ、そして連盟の理事職とか地方連合の会長というような仕事までさせられまして大変忙しい多忙を極めた十三年間を過ごしたわけですが、二足の草鞋が段々と重くなつていった時に、

辞任して次の牧師に委ねばならないという決意が与えられて牧師を辞任しました。

そして不思議にも今度は私のドクター論文の指導をされた先生がジョージタウン大学の学長になっていて、一年間、宣教師館が空いているので、そこにきて教えながら勉強しないかという声がありましたので、私は本当に感謝して、そこで二年半、大学生にたいへんたどたどしい英語で教えながら過ごし、もう一つの論文を書き上げてレキシントンというケンタッキー州第二の都市で日本人伝道をして、日本語礼拝をレキシントン教会につくって帰ってきたのです。

そして神様はその後にどういうことをなさったかといいますと、実は日本キリスト教団系列の学校でありますけれど福岡女学院が四年制大学を90年の四月から発足させることになり、聖書概論とキリスト教教理概論を教えるようにということでした。お招きをうけることになったのです。バプテストで働いてきた人間がそのようなミッションスクールで教派の違うところで働くということは本当に不思議な思いだったのですけれども、九州大学の教育学部長を努められた大塚優れたクリスチャンの岩橋文吉先生が四年制の大学の学長になられて、私に目をかけて下さり、ぜ

ひ来てほしいと招かれました。不思議な神様の導きでそこで学生たちに教えるようになったわけですが、岩橋学長は一般教育の主任をしるおっしゃるのです。神学部で教えてきたものの一般教育の主任というように重い責任はとも負えるものでないと思っただけですが、先生は「あなたしか今のところいないから」ということで一般教育の主任という重職を四年間勤めた後、今度は図書館長の仕事を加えられました。

そして一九九四年六月三〇日のちようど午後三時十五分に福岡女学院大学で授業中に心臓に異様な重苦しさを感ずはじめたのです。未だかつてない心臓の重苦しきなものですが「すまないけれども十五分特別休暇にさせて欲しい」と言った後に急に強い吐き気がしたので私は大学のトイレに駆け込もうと思ったのですが、ところがあまりにも心臓が苦しくなってきたので私は隣の部屋に倒れ込むようにして横になってしまいました。十五分あつという間にたつてしままい学生は私の姿が現れないものです。すから心配して探しにきてくれたのです。もし私が気分が悪いから男子便所に入って鍵をしめていたら死んでいたと思います。ところが幸いなことに男子便所が二十メートルのところから五百メートルも遠い所に感じられたのです。ですから隣の部屋に

倒れておりましたら段々苦しくなつて、学生が私を発見してくれました。すぐに校医さんがよばれて、私の脈拍をはかりますと「これは心臓だ」ということですぐに近くの病院に救急車で運ばれますと、これは危ない状態だというので久留米大病院の第3内科の救命センターに救急車で運ばれていったのです。

本当に不思議なもので、救急車に運ばれて行くときに、「神様、私の娘がまだ結婚していませんから何とか娘が結婚するまで私の命を守ってください」と俗的な祈りを捧げたのです。親馬鹿な祈りです。もっと高尚な祈りをできなかったかと今思つて残念ですが、実際人間とはそんなもの、私の信仰はそんなものだったのかなと思つていますけれども、幸いなことに直ちに心臓の手術が救命センターで行われました。而股から二つの管が入られました。心臓が三分の一活動を停止していましたが三分の二活動を与えて、心臓を動かしながら、脳にポンプで血液を送られ、もう一つの管から心臓に造影剤を送り、調べてみると一本の冠動脈が完全に詰まっていた。さらに回旋枝動脈二本が99%詰まっていたために心臓の三分の一が機能を失っている状態で、そこでお医者さんと看護婦さんとレントゲン技師の必死な闘いのなかで手術が無事終わった

編纂人 有馬 誠弘
定価 一部60円 千80円

▼聖ヨハネによる福音書
D.P.タイタス著 海老沢 飯島共訳
価一、二〇〇円 千二四〇円

▼御国を来らせ給え
D.P.タイタス著 植村俊雄訳
価三〇〇円 千九〇円

▼インド途上のキリスト
一九八六年一〇月改定版
E.S.ジョーンズ著 新訳者 洲江淳一
価一、九〇〇円 千三六〇円

▼アシュラムの原則と実際
海老沢宣道 著 第三版
新書版五二頁三〇〇円 千九〇円

日本アシュラム四十年記念出版

▼いかに祈るか

今世紀最大の世界的宣教師
スタンレー・ジョーンズ博士著
白川 鄭二 飯島庸江共訳

祈りの人スタンレーが祈りとは何か、祈りの段階と方法と実例を親切に教えている好著。
◆教会その他の祈祷会で用ゆるのに最適の好テキスト

新書判七〇頁

定価六〇〇円 千一九〇円
発行所 日本クリスチャン・アシュラム連盟

振替口座 〇〇一〇〇一四五五八

のです。

私はその手術を受ける中で本当に教えられましたことは、素裸にされて、一糸まとわぬ状態にされて上にカパーをかぶせられて手術を受けるわけですが、私は「人は裸で生まれ裸で死ぬ」というヨブ記の言葉がたえず頭をよぎっていたのです。そして自分の命は神様のみ手に委ねる以外にないと思って、「でもみ心ならばせめて娘が結婚するまでは」という親馬鹿の祈りを捧げていたわけです。でも私はそこではつきりと示されたことは、なんと今まで裸の身に学歴であるとか業績であるとか名譽であるとか地位であるとか財産、まあ牧師であれば財産はほとんど身につけられないのでありますが、そういうものをなんと自分の身にまといつけようとしてきたかということをやというほど教えられたのです。そういうものはやがて消え去っていくものにすぎないと教えられました。

兵庫県の明石の朝霧が丘に宮氏さんという方の献身的な設計と監督によって立派な頑丈な会堂、牧師館が建ちあがったのでありますが、阪神の大震災でつぶれてしまいました。

本会堂のほうは跡形もなく崩されてしまったのです。牧師館がかううじに残っています。でも全国の教会の支援によってまた教会堂は建ち立派になりましたが、でも人間が努力を

して築いて作ったものはこのようにくずれていくものだ、神様から教えられました。アメリカの五年の留学の後に福岡の長住教会に赴任して、そして教育館を建て牧師館も建て、そして私はやがてまたアメリカに留学していったわけですが、その教会も古くなって見事な会堂に建て替えられております。ですから私は死ぬ時にはやがて脱ぎ捨てていく、残していかなければならないもののためになんと長い時間を使ってきたかということをやというほど教えられたのであります。やがて忘れられていくもの、やがて消えていくもののために私は時間を労してきたなあと思いました。そして私は二十年來積み重ねてきた研究の成果を昨年「バプテスト教会の起源と問題」と題してやっとまとめて出版することができ、古き夢が叶って私の古き欲望はひとまず終わったわけですが、それもやがて消えてゆくのです。

そして私は福岡女学院大学で教えながら裸自身である自分というものは一体、どういうものかということをはじめて真剣に取り組みはじめたのが三年数カ月前からです。パウロはピリピ人への手紙のなかで「人はみな自分のことを求めるだけでキリスト・イエスのことは求めていない」と語っています。実際に私自身はまさにそうでありました。イエス・キ

リストのためにという大義名分を掲げていますけれども、実際に私の努力の背後に隠されているものは自分というものがあることが本当に知らされたのであります。私は過去を振り返ると有名大学を目指しました。卒業して有名な会社に就職しようと願ったわけです。そして高い地位を求めようとあらゆる努力をしました。そしてそれが挫折して献身者の道へ歩んできましたけれども、しかしいつのまにか自分、自分というものが前に出てきて、自分が人から高く評価されたい、人からほめられたいという強い願望が心の中に強くなってきたことを知ったのであります。私は兵庫県の明石の開拓伝道に赴き、四年間という短期間に経済的に自給独立して教会組織をすることで、「よくやった」「よく頑張った」とほめられ、評価されることにある種の喜びを感じていたわけです。アメリカに留学五年して、そして博士号をとって帰ってきた時に家族がみんな集まって「よくやった。よくやった」と喜んでくれる。その喜んでくれることに肉の喜びがあったことを思い出します。福岡長住教会の牧師になって十三年間に一八〇名近いバプテスマが次々とおこされ、これは大きな神様の恵みなのですけれども、そのことが人によって評価さ

喜びを感じはじめていたのです。同時に翻訳に打ち込み著作に打ち込み次々と二冊、三冊と増えていって八冊まできたときに本当に自分の研究業績というものが人から評価されて、それゆえにこそ大学で教授として教える道が開かれたのだと自分の心の底で自分を誇る思いがいつのまにか生じてきているということをお教えされたのです。

すべて神の栄光のためにという大義名分を掲げながら、そしてそのために神様のために一所懸命働いてきたことは事実なのですけれども、心の深い所を探ってみますと「自分のことを求めるだけでキリスト・イエスのことは求めていない」という言葉は私にはぐざりと刺さったのです。これが心筋梗塞に倒れて入院中に示された神様のお言葉であったわけです。私の中にはいつのまにか自分の学位への誇りが生じ、そんなものは死んで神様の前に立つ時は何の価値もない、どのくらい神様の前にその学んだものを生かして人に仕えたか、そういうことが問われるのだということをもろに教えられたのです。学歴とか学位というものは誇ってはならないということをお教えくださったので。

すべて、神様の恵みで始まり、終わるわけ、すけれども、そして多くの人々のすえによってあったにもか

かわらず、そしてその神様の恵みだけはアーメンと賛美、肯定しなければならぬのに、私はすべての栄光を神様に帰するというのを忘れて自分にも栄光を帰するという誘惑に引き寄せられて、いつのまにか傲慢になっていったことを神様から厳しく教えられたのです。そしてそれが私が心筋梗塞で倒れるという形で神様は猛烈な反省を促してくださいました。だから本当の自己とは何かということを中心梗塞で倒れて以来、私は本当に考え抜きました。そして私はその答えをピリピ人への手紙3章9節のなかに見出しました。「律法による自分の義ではなくキリストを信じる信仰による義、すなわち信仰に基づく神からの義を受けて、キリストのうちに自分を見いだすようになるために」。このキリストのうちに自分を見いだすということが本当に大切なことだと。そしてさらに私が学ばされていく中でイエス・キリストご自身が聖霊、み霊において私自身のなかに宿っておられ、だからこそこの罪深き肉体も、罪の宿る肉体も主の栄光のために用いられていくわけですが、私の内にキリストを見いだし、キリストの内に自分を見いだす。そういう方向に導かれてきたのであります。ですから心筋梗塞を患ったことが結果的には良いことでした。「苦しみに会う

ことは良いことでした」。それは神の誉れを、神様の恵みを知るためであつたのです。ローマ人への手紙8章28節に「神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さる」とあります。これは本当に真実であると私は思います。私は心筋梗塞で倒れる前も後、も本当に罪深い者でありますけれども、神様はすべてを最善に導いてくださつたということ、は事実なのです。神様の前に示されることは本当に自分の罪深さのみであります。それゆえにこのような罪深い者をなおも哀れみ、赦し、十字架の血潮によって赦し、潔めてくださる。本当にありがたいことです。なおも聖なる光りに照らされるほど、また自分のなかに宿り、残っている肉の思い、罪の力がさらにえぐりだされてきて、また潔められていく。

「霊のあるところに自由がある」とありますが、「栄光から栄光へと主と同じ姿に変えられていく」というイエス・キリストの霊の働きがあつて私たちは導かれていく、恵みのなかにあることが教えられるのです。私の信仰四十三年の歩みの恵みを語るために証的なものになりましたが、それをお許しいただきたいと思つています。

聖書目録を讀む

白川 鄭二

読み慣れた聖書の箇所を別の訳で読むと新しい感動を覚えることがある。名訳とされているN・E・B(新英語聖書)でコリント人への手紙13章4節以下を讀もう。

「愛は忍耐強い。愛は親切であり、誰をも妬まない。愛は決して誇らない。自惚れない。不作法ではない。決して利己的でない。たやすく怒らない。愛は人の悪を勘定しない。他人の罪を見てほくそ笑まない。むしろ真理を喜ぶ。愛が立ち向かえないものは何もない。愛の信頼、望み、忍耐は限りがない。

愛は終わることがない。預言者がいるか。彼らの働きは終るだろう。恍惚の異言があるか。それらは止むだろう。知識があるか。それらは消え去る。というのは、我々の知識、我々の預言も同様に部分的である。そして部分的なものは全きものが来る時に姿を消す。私が子供であつた時は私の話すこと、わたしの見解、私の思想は全て幼稚であつた。私が大人になつた時、幼稚なことは無関係になつた。今、私たちは鏡の中にただ訳の分からない反映を見ているが、しかしかの時には顔を合せて見るだろう。私の知識は今、部分的

である。かつ時には、神が私を知つておられるように全きものとなるだろう。一言で言えば、永続するものが三つある。信仰、希望と愛である。しかし、それら全てのものの中で最も大きなものは愛である。

愛を第一とせよ。しかしあなたが追い求めるべき他の霊の賜物、特に預言がある。——或人が恍惚の言葉を用いている時は、彼は神と話しているのど人と話しているのではない。というのは誰も彼のいうことを理解しないからである。彼が靈感を受けていることは疑えないが、彼は神秘を語っているのである。他方、或人が預言をする時、彼は人々に語っている。そして彼の言葉は建て上げる力をもっている。それらは人を鼓舞しまた励ます。恍惚の言葉は語り手自身には益であるが、しかし、クリスチャンの集会を建て上げるのは預言である。私はあなた方が皆恍惚の異言を使うのは結構と思うが、それよりも預言をする方がよいと思う。人がその意味を説明することができて、集会を建て上げるのを助けるのでなければ、預言者は恍惚の言葉を語る人よりもまさつてゐる。」

※イエスは主、アシュラム生活の中で与えられた恵みの体験を、是非お知らせください。全国の仲間が共に喜ぶことができます。

国際アシュラム連盟からの クリスマスマスの挨拶

『イエス・キリストが降誕された。御言は新しく肉となられた。われらはも早や孤独ではない。イエス・キリストが主であるから。』

愛するアシュラムの同志よ。国際アシュラム本部から、クリスマススの御挨拶を送る。皆様の支持をいかに喜んでいかを伝えたい。物心両面の協賛によって、世界アシュラムの聖務は進展することができ、多くの国々で成長していることを皆様に感謝したい。イエスは主である。

米国アラバマ州モンゴメリー市
国際クリスマスチャン・アシュラム
本部総主事 W・ピッカード

関西地区アシュラム案内

▼第33回関西アシュラム予定

・日時 99年10月10日〜11日

・会場 国際交流セミナーハウス
(詳細は進行中です。)

〔委員〕小島十二(支部長)、辻中

昭一、後宮俊夫、土山牧羔、金徳

成、金元治、古河治、内貴八郎右

衛門

〔実務委員〕清水潔(委員長)、平

方美代子(副実行委員長)、小林

勝(書記)、南嶋一郎(会計)、
許唱業、杉田常夫、川谷威郎、田
中逸衛、古河静子、渡部清数、金
武士。



関東地区アシュラム案内

▼第37回関東アシュラム予定

・日時 99年9月22日〜24日

・会場 山崎製パン箱根山荘
(詳細は進行中です。)

〔委員〕有馬歳弘(委員長)、島津

吉成(書記)、飯島庸江(会計)

藤井昇(会計)、海老沢宣道、大

石嗣郎、木部安来、新原迪、島隆

三、安藤脩、白川鄭二、横山義孝

松沢信廣、張田寅男、飯島延浩、

井本富三郎、石神勇、堀内清、中

村四郎、柳沢清、鈴木留蔵、棚田

恵子

▼第30回城北アシュラム開催

・日時 99年2月11日(日)

午前10時〜午後5時

・会場 日本基督教団新宿西教会

☎03・三二〇〇一五五五九

・費用 10000円

・主題 『戸の外に立って叩く
キリスト』

・助言者 ヨハネ黙示録3章20節

・共催 池の上キリスト教会

更生教会、天門教会

新宿西教会

教会アシュラム

○池の上キリスト教会アシュラム

・日時 99年5月16日(日)

☎04二二一33一一二五二

九州地区アシュラム案内

▼第34回九州アシュラム予定

・日時 99年11月23日〜24日

・会場 福岡黙想の家

・助言者 連盟理事長 大石嗣郎師

編集後記

新年、各地区では早くも次回アシュラム開催の準備が進められております。イエスは主である、の通り良き備えができますように全国にある禱友と共に祈ります。

白川鄭二先生が、長く編集の労をとってくださり、感謝いたします。

アシュラム紙に相応しい、優れた編集であったとおもいます。その後を引き受けたものの、力の及ばないことを当然ながら覚えて、取り組んでいます。今号までは、白川先生が

蓄えてくださいましたものです。斎藤先生の証しが続けられました、が、神様の不思議な導きを感じると共に聖名を崇めさせられました。

▽各地区アシュラム、教会アシュラム等の開催予定と報告を頂きますようにお願いします。

▽どなたでも、日々の静聴や恵みの体験をハガキで結構ですから投稿して下さいますと感謝です。

連絡先

〒一六〇一〇〇二一

新宿区歌舞伎町2-19-11

日本基督教団 新宿西教会

有馬歳弘 宛

☎03-3200-1555

FAX03-3200-7166